
◆ ガイダンス ◆

- 本書は、講義30コマ、演習問題、課題論文5本（別冊に収載）により構成されています。課題論文に沿って解説していきますので、最初に論文の抄録を読んで全体を把握してください。論文の参照箇所は講義中で随時お示ししていますから、講義を中心に読み進め、必要に応じて論文に戻る形で結構です。
- 講義の冒頭で「本講のテーマ」を掲げた後に、それについての解説がなされ、最後に「本講のエッセンス」としてまとめを行っています。本書をひととおり終えた後には、課題論文の通読にトライしてみてください。
- 解説の途中で、生徒とオオサンショウウオ先生の質疑応答があります。講義の補足となっていますので、合わせて読むようにしてください。
- 可能なかぎり数式は用いていません。いくつか大切なトピック〔Kaplan-Meier (カプラン・マイヤー) 法, Wald (ワルド) 検定, サンプルサイズの公式, 最小化法, ランダム化に基づく統計的推測, メタアナリシス, 誤分類によるバイアス, 交絡と層別解析〕については、講義の後に「理解を深めるための計算」を用意しています。お急ぎなら、こちらは飛ばして読んでいただいても構いません。
- 生物統計学は、統計学、臨床試験、メタアナリシス、疫学といった学問分野にまたがっているため、全体を俯瞰しづらい面があります。図1に、本書に登場するキーワードを整理しました。プロペンシティスコアやネットワークメタアナリシスなど流行の手法や、データの品質管理・保証など知っておくべき話題もカバーしています。疾患サーベイランス、予後因子研究、診断研究、医療経済評価の手法は扱っていません。
- 本書では英語論文を読む助けになるよう、キーワード初出には日本語と英語を併記しています。外国人名は英語表記としました。図1のVanderWeele (ヴァンダーウィル), Shpitser (シュピツァー), Poisson (ポアソン), Cox (コックス), Bayes (ベイズ) は著名な統計学者・数学者です。

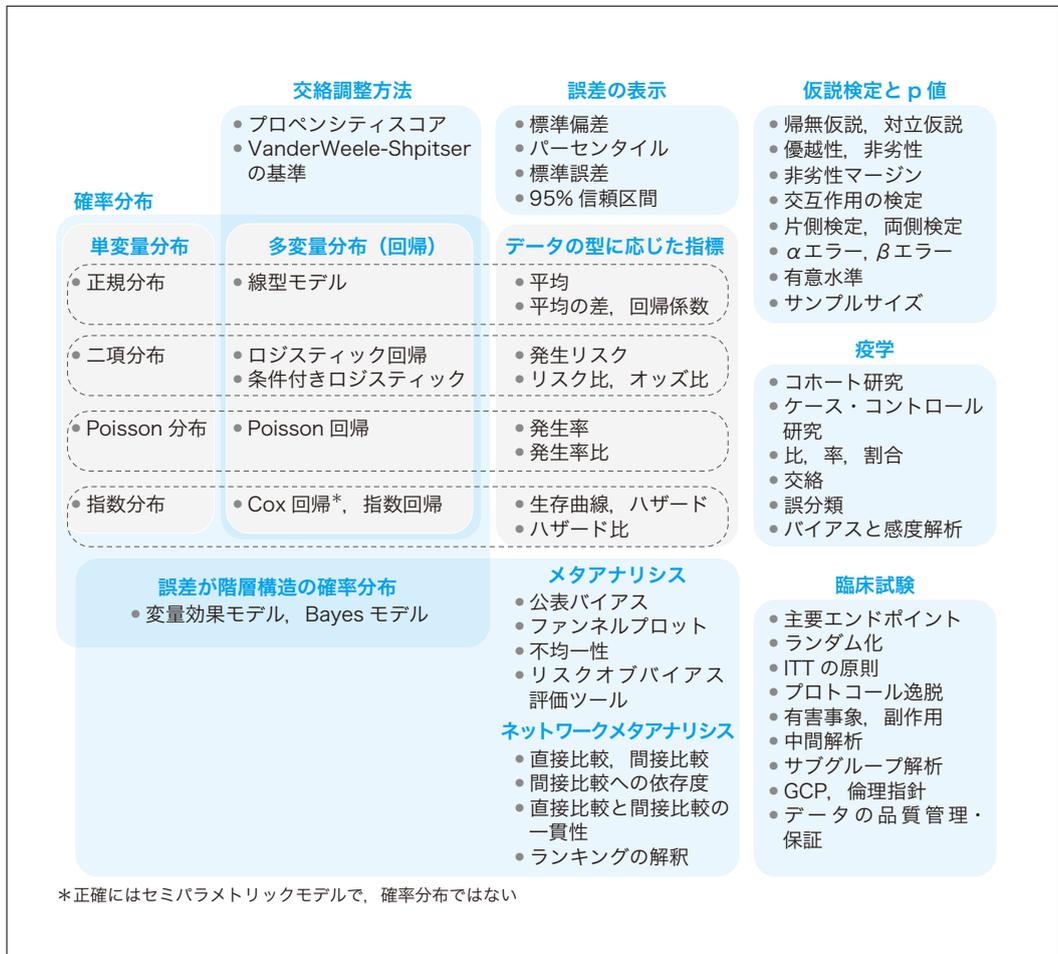


図1 本書で解説する生物統計キーワード

課題論文ごとのキーワードを, 別冊に収録した各論文の冒頭ページに示しています。